

# 平成28年度 鹿北の教育を創る (ベクトル・実践をそろえる)

## 1 現在地と目的地

すべての子どもが社会に出て自立して  
生きていく力をつけることができる教育の確立

小中学校教職員が、「鹿北の教育」を共有し、実践を創る。



国立教育政策研究所、教育課程研究センター  
教育課程研究指定校事業「校種間連携」の  
指定(2年間)を受ける

- ・生徒の交流はさかん、**教職員関係希薄。**
- ・小中学校併設の強みを生かしていない。
- ・教職員の関係が小中連携を阻害。

目的地



現在地



## 2 研究主題【2年間】

児童生徒の発達段階を踏まえ、**9年間の連続した「学び」**の確立と、**インクルーシブ教育システム構築**を融合させた学習指導の工夫・改善

鹿北の教育の基盤を共有



小中学校併設という強みを  
生かす

障がいの有無に関わりなく  
誰もが一緒に学べる

小中学校9年間の鹿北の「学び」を  
通ってきた児童・生徒全員が、  
社会に出て自立して生きていく力を  
身につけることができる。

## 3 鹿北の教育を創る【ベクトル・実践をそろえる】

- (1) 鹿北小中学校目指す子ども像の作成
- (2) 鹿北中校区保小中連携カリキュラム作成
- (3) 鹿北版学習過程スタンダード実践
- (4) 鹿北版UD化チェックリスト作成・活用
- (5) 鹿北版「学びの姿」作成
- (6) 鹿北小・中学合同学校運営協議会発足

小中学校  
教職員協働

# 鹿北版学習過程スタンダード実践

小中学校全学年全教科で授業の進め方をそろえる。5月には、小中学生、教職員、保護者、地域の方々が出席して、提案授業を実施。鹿北の授業スタイルを共有。

一番のポイントは、授業の最初に黒板にカードを貼ってあるので、授業中、迷子にならない。自分が今どこにいて、次に何をするのがわかること。

## 提案授業(中学校体育館にて)

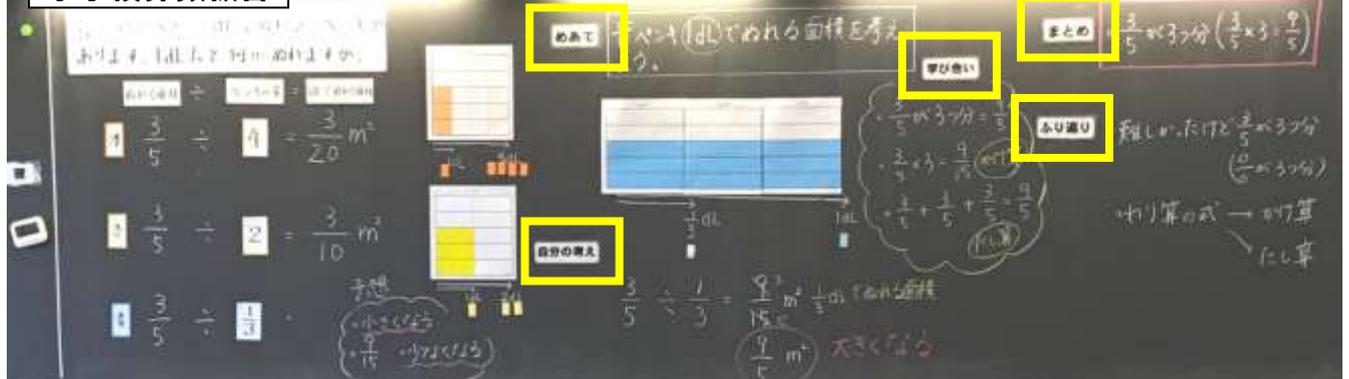
生徒・・・カードが事前に黒板に貼ってあるので見通しがもてる  
 教師・・・UDの授業力向上。まとめ・振り返りで完結する授業



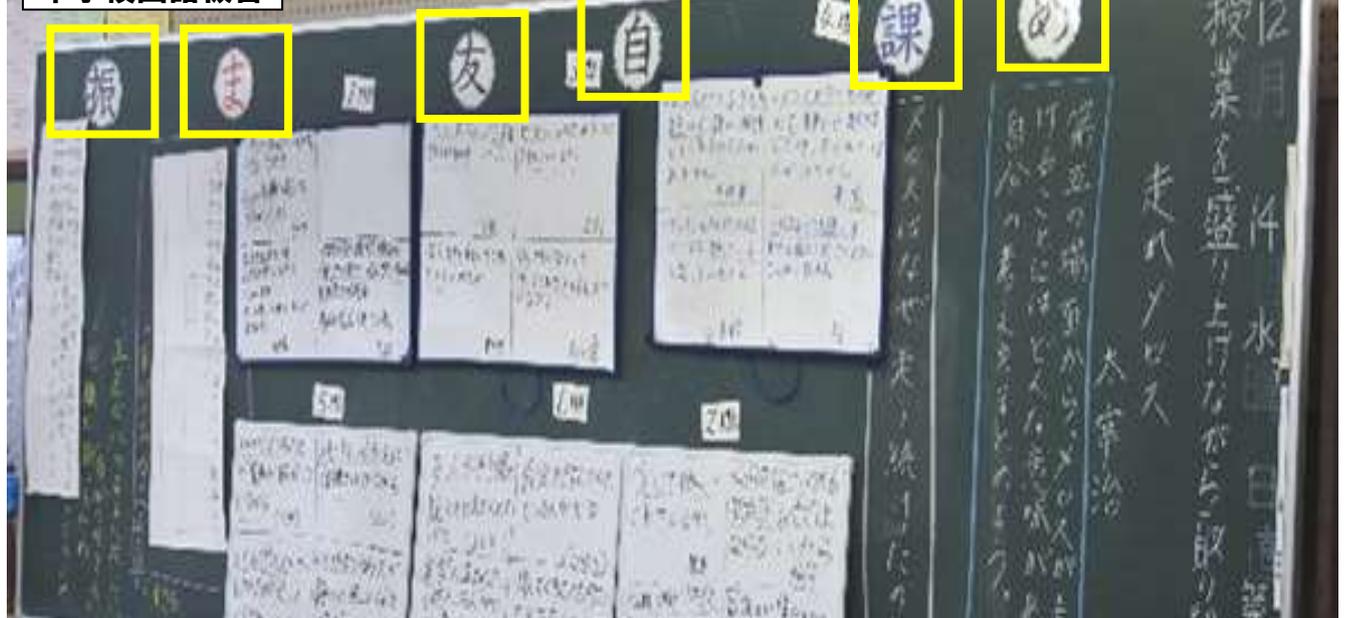
### 板書計画

日付を書く	<b>め</b> 生徒の興味関心を高め、意欲を喚起する 獲得する概念や概念	<b>自</b> 一人学び 自分で考える 指導者は個別支援 ヒントカード活用	<b>友</b> 学び合い 考えを交流 考えを深める ・ペア ・班	<b>ま</b> 自分の言葉でまとめる
キーワードを貼っておく	<b>課</b> めあてを達成するための学習課題			<b>振</b> わかったこと 友だちからの学び 深めたいこと

### 小学校算数板書



### 中学校国語板書



# 鹿北版UD化チェックリスト

名前 \_\_\_\_\_

4:できている(80%以上) 3:おおむねできている(60%程度) 2:あまりできていない(40%程度) 1:できていない(20%以下)

## 1 環境づくり

		4月	5月	6月	7月	平均
1	簡潔に、ゆっくり、具体的に、短い言葉で指示している（「1つめは～です」）					
2	否定、命令、禁止の言葉ではなく肯定的な言葉かけをしている（「～しない」より「～しよう」等）					
3	給食や掃除のきまり、学校生活や授業において守るべきルール等を明確に示している					
4	整理整頓の手順・方法を決めて指導している					
5	教室前面は必要なもののみ掲示している					
6	1日や1週間の予定を見やすく掲示している					
7	予定の変更は早めに伝え、視覚的に分かりやすく示している					
8	準備物を忘れがちな子どもへの配慮をしている					
9	子どもの実態に合わせた座席配置を工夫している					

## 2 共感的な人間関係づくり

1	認め、褒め、励ます声かけを行い、子どもとの信頼関係づくり、支持的風土づくりに努めている
2	長所やできていることをもとに、一人一人が活躍したり、認められる場をつくっている
3	個性や違いを認め合い、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気をつくっている。
4	教師自身が、特別の支援を必要とする子どもに対するかかわり方のモデルとなっている
5	子どもの行動の背景や理由を共通理解した上で、指示や言葉かけをしている

## 3 授業づくり

### (1) 学習過程の工夫

1	学習課題(めあて)や学習の流れを明確に示し、見通しを持って取り組めるようにしている
2	導入では、興味・意欲・関心を高め、「学んでみたい」と思えるような工夫をしている
3	展開では自力解決ができるような手だてや教材・教具の準備をし分かりやすく提示している
4	ねらいに応じて様々な学習形態を工夫している(ペア、グループ、一斉など)
5	互いに高めあう「学び合い」ができるよう工夫をしている
6	子どもの言葉で「まとめ」が行われ、一人一人が達成感を味わうことができている
7	子ども自身が成長を実感できる「振り返り」ができている

### (2) 個別指導の工夫

		4月	5月	6月	7月	平均
1	全体指示で伝わりにくい子どもには、個別に指示をしている					
2	子どもの習熟度に合わせて、課題を複数用意し、選択できるようにしている					
3	読む・話す・書くことが苦手な子どもへの配慮をしている(時間の確保、量の調整等)					

### (3) 板書の工夫

		4月	5月	6月	7月	平均
1	授業の流れや内容が分かるよう、板書の構成を工夫している					
2	チョークの色や字の大きさなど子どもの「見やすさ」という視点に立って板書をしている					
3	大切な点やポイントが分かるような板書をしている(ライン、枠囲み、矢印、記号等)					

### (4) 教材・教具等の工夫

		4月	5月	6月	7月	平均
1	ノートの取り方やファイル・プリントの整理の仕方等を指導している(モデルの提示等)					
2	提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具を工夫している(具体物、写真、動画、ICT活用等)					

毎月、29項目の視点で、自分の授業や教育活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。



特別支援教育コーディネーターが集計し、課題を明らかにし、重点的に取り組む方向性を提案する。

## ※1学期を振り返っての感想

## 学びの姿

### 学びの姿

#### 意欲を持って

気持ちと用具の準備  
心を込めたあいさつ・返事  
正しい姿勢

#### 伝え合い

意見や思いを、  
話す、聞く、書く

#### 深め合う

考え、探求し、解決する

「授業中はこんな姿で学ぶ」ということを小中学校  
全学年で統一。児童・生徒にも説明し共有を図る。



## 小中合同学校運営協議会

2学期には、鹿北体力向上委員会設置  
の提案をする予定。



コミュニティスクール



鹿北の教育を町全体で考える風土づくり

## 1年後の変容

### □ 視点の変容

小学校6年間、中学校3年間というとらえ方ではなく、**小中学校9年間で子どもたちをどう育てていくのかという視点**を持てるようになった。

### □ 風土の醸成

小中学校それぞれの違いを理解することで、お互いを尊重し、**支え合う風土**ができつつある。

### □ 小中連携の必要性

交流から連携へと関係が深まる中で、子どもたちの成長を実感できる場面が見られた。そのことで、**小中連携の必要性**を感じる教職員が増えている。